

未来を見据えたまちづくり

明けましておめでとうございませう

空港づくりは地域づくり

アラートの新型受信機を導入するなど、さらなる情報伝達体制の整備に努めます。



成田市長
小泉 一成

市民の皆様には、平成31年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

はじめに、昨年末の市長選挙において、4期目の市政のかじ取り役という重要な職責を担わせていただくことになりました。心新たに、可能性あふれる「成田」の未来を見据えたまちづくりに全力で取り組んでいく所存です。

昨年は成田山開基1080年、成田国際空港（成田空港）開港40年と節目の年を迎え、皆様には各種記念事業にご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。

本市は、成田空港のさらなる機

能強化、国際医療福祉大学成田病院（付属病院）の開院、そして新生成田市場の整備と今まさに将来を見据えたまちづくりを進めています。本市がさらに大きく発展するよう、そして現在取り組んでいる多くの事業が大きく開花するよう勇往邁進していきます。

災害に強いまちづくり

近年、全国各地でさまざまな災害が相次ぎ、昨年も大阪府北部や北海道胆振地方での地震、西日本に大きな被害をもたらした集中豪雨などが発生しました。

本市においても、これらの自然災害からの被害を最小限にとどめるため「成田市地域防災計画」に基づいた減災対策や訓練を実施し、災害時に迅速な対応ができるよう防災体制の強化を進めていきます。

また、災害時の情報伝達の重要性を踏まえ、皆様に災害情報を迅速に伝達することが可能となる

成田空港は昭和53年の開港以来、わが国の空の玄関としての役割を担い、昨年40周年を迎えました。昨年上半年の航空旅客数は2、061万5、000人と暦年上期で初めて2、000万人を超え、5期連続で最高値を更新し、増加の一途をたどっています。世界の航空需要が増加し、特にアジアの主要空港との路線獲得競争や訪日外国人旅行者数を2020年に4、000万人、2030年に6、000万人にするという政府目標の達成への貢献という観点を踏まえ、成田空港の国際競争力と機能の強化が求められています。

このようなか、昨年3月に、国・県・空港会社・空港周辺9市町で構成された四者協議会が開催され、滑走路の増設を含めた機能強化の実施について合意しました。引き続き四者が連携して、機能強化、生活環境の保全、地域振興策などを一体的なものとして進めていきます。

上空から見た成田空港

さらに、付属病院をはじめとする医療集積拠点の形成、空港のさらなる機能強化に伴う事業者のための開発需要や人口増加が見込まれることから、都市機能や住環境といった都市基盤を新たに吉倉地区に整備するなど、未来を見据えたまちづくりの推進を図ってまいります。

スポーツツーリズムの推進

成田空港を擁する国際都市である本市は、多くの国内外の都市と結ばれています。こうした地理的優位性を生かし、スポーツイベントの誘致・開催などを行い、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致などに積極的に取り組んできました。その結果、アメリカ合衆国の陸上チームとアイルランドパラリンピック選手団の事前キャンプを迎え入れることになりました。こ

の機会を最大限に生かしアスリートなどとの交流を積極的に行うなど、共生社会の実現やスポーツツーリズムの推進を図ってまいります。

空港周辺の道路網の拡充

千葉県内の圏央道は、現在約8割が開通しています。残る未開通区間である大栄―横芝間は、2024年の開通を目指し、昨年3月に工事に着手しました。また、北千葉道路船形―押畑間、さらには本市で整備を進めている都市計画道路のニュータウン中央線についても、成田北高校前交差点―県道成田安食線バイパスの区間が、本年度末に開通します。

今後、北千葉道路の国道295号までの開通や圏央道の全線が整備されることで、より一層本市への交通アクセスが向上し、人や物の移動の円滑化が図られるとともに、観光の活性化や企業の進出、雇用の創出が期待されます。

医療・福祉の充実

現在、2020年の開院を目指して付属病院の建設工事が畑ヶ田地先で進められています。病院には、内科や外科、心臓外科、救急診療科など39の診療科と一般病床600、精神病床40、感染症病床

2の計642の病床が設置されます。これにより、皆様が身近な場所でも高度な医療を受けられるようになります。さらに付属病院と地域の医療機関などとの連携が図られるなど、本市の医療環境が向上し、超高齢社会に対応したまちづくりが実現できるものと確信しています。

また、高齢の方々が住み慣れた地域で、生き生きと安心して生活が継続できるよう、日常生活圏域の再編成を行い、段階的に地域包括支援センターを増設しています。昨年10月には、公津地区を担当する西部西地域包括支援センターを新設するなど、総合相談窓口である地域包括支援センターの機能強化を図っているところです。

今後、高齢者、障がい者、子育て世代など、誰もが住み慣れた地域で互いに支え合い、生きがいと共に創り、高め合うことができ、地域共生社会の実現を目指してまいります。

日本の食文化の発信地を目指して

四季折々の食材を生かし、繊細な味わいと鮮やかな盛り付けで彩られる和食は、栄養バランスが優れていることから海外でも高い評

価を受けています。また、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、人気はさらに高まっています。新生成田市場は、皆様に、安全・安心な生鮮食品などを安定的に供給することはもとより、成田空港、東関道、圏央道などの充実した交通ネットワークを最大限に活用できる立地を生かし、農水産物の効率的な輸出を可能とする日本初のワンストップ輸出拠点機能を備えた、日本の食文化を「世界」へ発信する施設として、2020年の開場に向けて再整備を進めているところです。さらに、観光スポットとして、空港を利用する国内外のお客様が気軽に立ち寄って日本の「食」を楽しめるような集客施設も備えてまいります。

子育て世代に魅力あるまちづくり

本市が安定して発展していくためには、次代のまちづくりの担い手である若者や子育て世代にとって魅力あるまちづくりが必要であると考えます。

特に待機児童解消への取り組みでは、保育を必要とする全ての児童が保育園などに入所できるよう、昨年10月から玉造保育園の定員を増員したほか、改修工事の代替保

育施設として運営していた赤坂保育園を今後も存続することとし、小規模保育事業所などの卒園児の受け皿として対応します。

引き続き、私立保育園などの安定した運営に対する支援や、保育士の処遇改善を行うなど、保育環境の充実に努めます。

保健福祉館内に開設した子育て世代包括支援センターでは、妊娠・出産・子育てに関する切れ目のない支援を行っていますが、本年4月からは、出産後の家庭を訪問し育児支援や相談を行う産後ケア事業も開始します。今後も、皆様が、安心して、子どもを産み育てられる環境づくりに取り組んでまいります。

歴史的な皇位継承まで残り数カ月となりました。昭和から平成へ、そして次の時代へ引き継がれようとしています。新しい時代に向かって、本市の輝かしい未来を見据えた「次世代に誇れるまちづくり」を進め、より一層皆様に「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」を実感していただけるよう取り組んでまいります。本年も市民の皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。



アイルランドパラ水泳チームによる水泳教室